

「命のヴィザ」 言説の虚構

Kenji Kanno

菅野賢治

リトアニアのユダヤ難民に
何があったのか？

22
X
ニューヨークのユダヤ系機関に保管されている
第一級資料にメスを入れ、徹底的に分析・調査。

「神話」から歴史の真実を取り戻し、
もう一つの脅威をあらわにする迫真の学術ドキュメント。

「日本のシンドラー」に関する伝説は、
今後、本書によって書き換えられる。

第2次世界大戦中、ナチスの（ホ
ロコースト）からユダヤ難民を救
うために発給された、「命のヴィ
ザ」をめぐる物語。しかし、その
ヴィザの真の目的は何だったのか？

1940年夏のリトアニアで、
いったい何が起きたのか。



共和国

「命のヴィザ」
言説の虚構

リトアニアのユダヤ難民に
何があったのか？

菅野賢治



共和国

「命のヴェイザ」言説の虚構——リトアニアのユダヤ難民に何があったのか？

目次

はじめに

本書の主眼

JDC資料——文書保存の重要性……………014

スルガイリスの史料研究……………017

既存言説と一次資料 その驚くばかりの齟齬……………020

第一章

リトアニアのソヴィエト化以前

(一九三九年九月～四〇年五月)

JDCとリトアニア——第二次大戦開戦の報をうけて……………026

ヴィルノ／ヴィルニユスのリトアニア併合をうけて……………030

ユダヤ人＝リトアニア人合同委員会……………033

リトアニア政府の対応(一) 新しい国籍法……………036

脱出者が伝える占領下ポーランドの状況……………040

併合直後のヴィルニユス——ヒレル・レヴィン『スキハラを求めて』を批判する……………046

リトアニア人、ポーランド人、ソ連人、そしてユダヤ人……………057

リトアニア政府の対応(二) 支援組織の公認……………064

スヴァウキ地区の状況	067
ベッケルマンによるリトアニアの情勢分析	072
リトアニア政府の対応(三) 難民登録の実施	079
戦争難民の実数	083
難民たちの日常生活	085
支援金の分配方法をめぐって	091
ブンド派の独立独歩(一)	101
ナチスの暴行をめぐる資料体構築の試み	106
「エストニア」号拿捕事件	111
ブンド派の独立独歩(二)	116
ルバヴィチ派からの支援要請(一) ポーランドに残された同胞たちのために	121
リトアニア政府の対応(四) ヴィルニウス地区既存住民の処遇	130
難民の国内分散移住	135
ヴァルハフティグの行動の軌跡(一) 通常のアリヤー事業	144
ソ連領内から六十名の救出計画	146
中立国リトアニアからの国外移住	151
中立国リトアニアにおける反ユダヤ主義とナチズムの脅威	156

第二章

ソヴィエト・リトアニアの成立からソ連国籍の強制まで

(一九四〇年六月～十二月)

一九四〇年六月～七月の大激動	164
体を殺すドイツ人、魂を殺すロシア人——「ユダヤ的ユダヤ人」に迫る危険	171
JDC現地資金確保のための奔走(一) 資産凍結のあり	182
アメリカ国籍者の脱出——フィンランド北端ヘツァモ経由	190
JDC現地資金確保のための奔走(二) JDCの法令順守主義とベッケルマンの苛立ち	196
共産主義体制下におけるユダヤ難民の立場	207
ブンド指導者ボルフ・シェフェネルの場合	216
ソ連領通過の可能性	221
「キュラソー・ヴィザ」言説の論理矛盾——ヤン・ブロッケン「義人」を批判する	229
ヴァルハフティグの行動の軌跡(二) ヴィザ取得の推奨	239
杉原千畝・幸子証言と一次資料の明白な乖離	242
記憶と歴史——日本版〈ホロコースト産業〉への警鐘	276
「宣誓供述書」による日本通過ヴィザの発給	279
ギテルマンのために作成された「宣誓供述書」	293
ドイツ・ユダヤ移民との関係(一) ドイツからリトアニア経由、日本へ	301
移住支援という選択肢の急浮上	304

ラビ・カルマン・ヴィツのイニシアティブ	307
イエシヴァー救出のためのユダヤ教組織全体会議(一九四〇年八月十五日)	311
ルバヴィチ派からの支援要請(二)現地支援から移住支援へ	316
イエシヴァー救出のための小委員会(一九四〇年九月九日)	319
JDC現地資金確保のための奔走(三)「移住費用」立て替え案	324
シオニスト集団の最初の移送計画	329
JDC現地資金確保のための奔走(四)リトアニア政府からの借款	334
「キュランソー」への言及——「ヒマス」上海支部からヴァイルニェス支部への手紙	342
イエシヴァー救出計画の顛末(一)「重い足取り」	350
ヴァルハフティグの行動の軌跡(三)日本へ、そして横浜からJDCへの提言	356
イエシヴァー救出計画の顛末(二)ドイツ籍ユダヤ教団学生たちの命運	362
イエシヴァー救出計画の顛末(三)「国務省との折衝」	366
ヴァルハフティグの行動の軌跡(四)「オテッサ・ルート」の開通	372
イエシヴァー救出計画の顛末(四)一九四〇年十二月二十六日の全体委員会	381
JDC現地資金確保のための奔走(五)「財務省の許可」	388

第二章

大脱出

(一九四一年一月～二月)

ソ連人となるか、無国籍者となるか	394
イエシヴァー救出計画の顛末(五)「外交上」の言語	401
ベッケルマンの奮闘(一)「今やもななくば無」	407
モスクワないし日本での最終ヴィザ受給	418
「キュランソー・ヴィザ」と「杉原ヴィザ」の存在価値(一)ともかくモスクワまで	425
ベッケルマンの奮闘(二)ソ連出国ヴィザの大規模発給	428
「パレスティナ移送」と「非パレスティナ移送」の切り分け	433
ベッケルマンの奮闘(三)「ヒンエム」主導による五百名	440
「キュランソー・ヴィザ」と「杉原ヴィザ」の存在価値(二)「イントゥーリスト」を介しての日本通過許可	447
忘れられた実務者たち	451
ベッケルマンの奮闘(四)JDCニューヨーク本部の誤解払拭	453
ドイツ・ユダヤ移民との関係(二)リトアニア残留者の命運	461
「セント・ルイス号事件」との思わぬ関連	465
ベッケルマンの奮闘(五)最後の二週間	471

結論と今後の課題

ベッケルマンによる総括(一)	480
ベッケルマンによる総括(二)	486



1939年中頃のリトアニア

1939年3月ドイツに併合されたクライペダ地区

1939年10月リトアニアに併合されたヴィルニウス地区

1940年リトアニアに移譲されたソヴィエト・ヴェラルーシ領

1939年10月
ドイツ支配地域と
ソ連支配地域の境界

ラトヴィア

リトアニア

ポーランド

ベラルーシ

ヴィルニウス
(ヴィルノ)

ダウガスピルス

パネヴェジース

ケーダイネイ

カウナス

ヴィルバリス

スヴァウキ

ジャガレー

シャウレイ

テルシェイ

バルト海

メーメル
(クライペダ)

ベッケルマンによる総括(三)

ナチスの脅威の存在

彼らは何(から)逃れたのか——証言の扱い、画すべき一線

ひとつの「論争誘発的」な比較

ギテルマンのその後

「ユダヤ難民」という言葉がもたらす非思考

出立しなかった(できなかった)人々の命運——避難地としてのソ連領

アメリカと日本に何ができたか

自己を主張しない功労者たち

あるがままの〈好意〉を〈フツバー〉へと眨めないために

補遺

エマヌエル・リングゲルブルムによるイツハク・ギテルマン伝(抄)

書き手不明のJDC文書「リトアニアにおけるユダヤ人の絶滅」(一九四三年)

註

主なJDCメンバー略歴

関連年表

あごがき

人名索引

645

623

611

603

566

554

546

538

533

528

523

520

513

509

504

501

491